

令和 3 年 3 月 31 日

令和 2 年度 WWL コンソーシアム構築支援事業の実施状況等について

| | | |
|-------------|----------|-------|
| 福岡県 | | |
| カリキュラム開発拠点校 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 中村学園女子高等学校 | 学校法人中村学園 | 私立 |

1. WWL コンソーシアム構築支援事業を実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

| カリキュラム開発拠点校 | 自己評価結果の公表 | 学校関係者評価結果の公表 |
|-------------|---|---|
| 中村学園女子高等学校 | https://www.nakamura-njh.ed.jp/news/2089 | https://www.nakamura-njh.ed.jp/news/2089 |

2. WWL コンソーシアム構築支援事業の内容

(1) WWL コンソーシアム構築支援事業の概要

これまでの SGH 事業の成果をさらに発展・充実させながら、地球規模の課題「食」に関わる探究活動による課題解決を通じて Society 5.0 をたくましく創造的に生きる人材を育成する。ここで扱う「食」の課題は、食に関わる 4 領域（社会文化・環境・経済・栄養）及び SDGs のターゲットである。この教育的基盤となる AL コンソーシアムを組織し、拡大と発展を図りながら、広く生徒たちに高度な学びの機会を提供し、より多くのイノベティブなグローバル人材を育成する。育成過程において、文理融合型のカリキュラムやイノベーションスキルの育成法・評価法、生徒の多様な目的や課題に対応した国内外の研修先の開拓、留学生との協働を最適化する実践プログラム、大学教育の先取り履修による高度な学びの提供方法等の開発へ特に注力することで、「食」を切り口として新しい価値を創造し、グローバル・イノベーターを育成するための教育プログラムのスタンダードモデルを創りあげる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

教育課程の特例を活用していないものの、GI クラスにおける学校内部での設定科目として、英語の一部に「英語探究」、総合的な探究の時間のすべてを「GI 探究」として実施した。それらの中で、イノベティブなグローバル人材を育成するための独自のシラバスを設計して実施した。この科目・教科は拠点校が本事業において目指す人材育成には不可欠なものであり、今後は教科の一部としてではなく、正式な学校設定教科として位置づけた教育課程を編成する計画である。

(3) 特例の適用開始日

(教育課程の特例は活用していない。)

(4) 取組の期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

3. WWLコンソーシアム構築支援事業の実施状況に関する把握・検証結果

(1) WWLコンソーシアム構築支援事業実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

新型コロナウイルス感染症防止対策により、1年GIクラスの「GIスタートアップセミナー」及び「GI留学プログラム」については実施していない。また、当初8月に予定していた「食のサミット」は3月へ、9月に予定していた「グローバル・キャンパス (GIフィールドワーク Basic)」は10・11月へそれぞれ延期して実施した。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

本事業での活動を紹介する広報紙の配布とメールの送信、拠点校ホームページでのニュース掲載を随時行った。

4. 実施の効果及び課題

(1) WWLコンソーシアム構築支援事業の実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

今年度は本事業の実施初年度となり、拠点校に新しく開設したGIクラスに36名の入学生を迎えることでスタートした。1年次は、育成を目指すGI(グローバル・イノベーター)の基盤となる日本人としての自覚や豊かな文化的感性、礼儀・作法、地球規模の課題への関心、課題解決への意欲・態度は「道徳」や「日本史A」の履修によって着実に身につけているようである。特に、「GI探究」や「グローバル・キャンパス (GIフィールドワーク Basic)」の実施によって、アイデンティティやコミュニケーション力、グローバルキャリア形成への意欲の高まりが顕著に見られた。したがって、今年度を実施した事業内容について一定の効果があつたと認められる。GIとして、前記の力に加えて育成すべき力と考えている高次の課題解決力や調和力、持続可能な社会実現の可能性へのマインドセットに

については、2年次以降の事業内容で育成していくため、今年度は大きな変化は見られなかった。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育法第51条に示されている事項の中で、今年度は特に文理融合型の探究科目「GI探究」の履修によって「社会について広く深い理解」「社会の発展への寄与する態度」が育成できたと考えられる。今後は、さらに深い学びを通して「創造性」や「専門的な知識・技術・技能」の習得が課題となるであろう。

5. 課題の改善のための取組の方向性

次年度はGIクラス2年目に入るため、「GIスキルアップセミナー（アントレプレナーシップのセミナー）」や「GIフィールドワーク Advance」等、本格的にイノベーティブな人材を育成するための教育活動を導入する。それらの計画的な実践を通して、課題となっている今後育成すべきGIとして必要な力（特に高次の課題解決力、突破力、創造力、調和力）について、様々な視点で測定するアンケートや形成的評価等の開発も合わせて行っていく。

また、今後も新型コロナウイルス等の感染症や他の疫病のリスクは避けられない状況であるため、様々な活動についてオンラインでの実施も積極的に検討し、最大限の教育効果を上げられるよう研究する。